

広報ただみ診療所

朝日診療所

所長 若山 隆



「看護師が不足しております」

大変恐縮ですが、今回は病気などの健康問題に関するお話ではなく、朝日診療所の看護師の業務と看護師不足についてお話しさせていただきます。

一般的な外来での看護師の業務として、採血や点滴などの処置、医師の診察の前後での症状や悩み事などの相談、体温や血圧などの測定をしています。また、皆さんの目につきにくい場所では、診療所で用いられる薬の管理（整理整頓から在庫管理など）、さまざまな検査機器の管理（採血検査や内視鏡などの器械や救命救急などで必要となる様々な器械の管理）などがあります。これらは大きな病院であれば薬剤師や検査技師などの専属の職種が行うのですが、朝日診療所のような規模の小さなところでは、看護師が担っています。診療所では入院患者の治療も行っており、容態の変化がないか常に注意しながら具合が悪い患者さんの身の回りのお世話（排せつの介助や食事の介助）をしています。また、朝日診療所では訪問看護も行っており、日中に患者さんのお宅まで伺って看護業務を提供したりもしています。

これらの業務をこなして、只見町の皆さまの安心・安全のため日々頑張ってくれている看護師さんですが、その看護師さんが足りなくなっています。もともと不足していましたが、2019年3月末で1名の看護師が定年退職を迎えるのを皮切りに、2021年3月末までに合計3名の定年退職者が出ます。代替りの看護師さんを募集中ではありますが、会津全体で看護師不足の傾向で、南会津病院をはじめ周辺医療機関でも看護師の募集をかけても人が集まらない状態です。

看護師不足になると、夜勤業務をこなしていくのが困難になります。夜勤業務は少数のスタッフで入院患者さんの治療を行いつつ、救急車を含む急病の患者さんを看なくてはならないので看護師の負担も大きい業務です。今後、場合によっては夜間の診療に影響がでてくるかもしれません。

皆さまの周りで、もし朝日診療所で働いてくれそうな看護師をご存じであれば、ぜひ診療所（TEL／84-2221）か只見町役場総務課（TEL／82-5210）までご連絡ください。

地域おこし協力隊として 只見町教育振興協力隊

vol.51

渡辺 史



「積み重ねてきたもの」

この原稿を執筆している今から2年前頃、私は只見町に引越してきました。その時は本当に雪がひどくて、ここで一人暮らしをすることに不安しかない、そんな時期でした。水抜きをしないと凍る水道、どこからともなく侵入してくるカメムシ、絶え間なく降り続ける雪、雪道運転。一人暮らしは初めてではないものの、自分で自分を疑いたくなるほどそれまでの経験が役に立ちませんでした。

現在の私といえば…。カメムシが出れば何も言わず退治できるようになり、未だに怖さはあるものの雪道運転にも慣れつつあり、ああ今年は雪が少

ないな、只見らしくないなと思いを馳せるようになり、少しずつ方言も理解できるようになり、当時の私からは考えられないほどたくましくなりました。今年で只見3年目。町民の皆さまからすればまだまだ、とご指摘を受けそうですが、あの時はこうだったな、と振り返ることが出来るだけの時間を只見で過ごしてきたと思うと感慨深いものがあります。そういう時間を積み重ねてこられたのも、多くの町民の皆さまに支えられているからこそ。感謝の気持ちを忘れず、只見町の役に立てるように頑張ります。今年もよろしく願いいたします。